



ソビエト連邦  
バイカル湖  
ウラン・ウデ  
モンゴル  
内モンゴル自治区  
中国  
ウラジオストク

# るもい——ウラン・ウデ ごーらっと・せすとらー (ウラン・ウデー留萌と姉妹都市)



バイカル湖畔に広がるウラン・ウデ市の風景



▶ブリヤートの娘さん

## 姉妹都市を むすぶまで

1969年6月(昭和44年)  
日ソ協会留萌支部長黒江貞之助氏が日ソ文化交流計画に基づく親善使節団として招待訪ソの際、留萌市との都市提携に関する市長メッセージをモスクワのソ日協会を通じ申し入れた。(提携対象都市 ソビエツカヤ・ガワニ市)

1970年5月(昭和45年)  
ソビエツカヤ・ガワニ市は、軍事上の理由で難色を示したため、マガダン州マガダン市に変え、在札ソビエト総領事館へ申し入れた。

1970年6月  
6月26日 来留されたバンドウラ総領事に促進を要請し、同7月、マガダン市長へ、留萌市長のメッセージを送付。

1970年12月  
ソ連最高会議極東親善会から総領事を通じて、ブリヤート共和国の首都ウラン・ウデ市との提携について紹介された。

同12月、理事会(日ソ協会支部)に計り、都市提携の確認がされた

1971年1月(昭和46年)  
ウラン・ウデ市長に対し、留萌市長及び支部長連名のメッセージを送付、4月2日、総領事より、ウラン・ウデ市との姉妹都市提携を了承したとの連絡があり、公文書による回答があった。

では、ウラン・ウデ市(ブリヤート地方も含みます)の自然などにふれてみましょう。

主要産物は、主に金、タングステン、モリブタン、ニッケルなどが大量に埋蔵しており、開発が進められています。

気候は、冬はながく寒いが、風はなく雪はほとんどありません。

夏は短かいが、暖い。領土の七十%は森林で、カラ松、ヒマラヤ杉、モミなどにおおわれており、特に



黒てん・金の豊庫

有名なものに、バイカル湖北東に住む黒てん(見出し上のカットにある)があり、このほかに、リス銀ギツネなどの毛皮用動物の養殖も盛んに行なわれています。

また、単に工業だけでなく、農業も盛んに行なわれ、生産の四分の三をしめる家畜も飼われています。

簡単に、姉妹都市を提携することになったウラン・ウデ市を紹介してみます。

今後の交友プランなどは、六月市議会にも提案される予定ですがウラン・ウデ市との姉妹都市提携を足がかりに、同市で生産される製品や産物を留萌港を基地にして輸入され、そして留萌で、北海道で生産された物が、留萌港を基地にして輸出されるなど、経済交流とともに対岸貿易も盛んになることでしょう。

道北の門戸港るもいが、対岸貿易港るもいとなる足がかりとして大きく飛躍する時期を迎えたようです。



▲緑の中を行くウラン・ウデ市民と大通り



▶三人の婦人はブリヤートのお医者さん



▶バイカル湖で釣りを楽しむポート

## 工業と大学の街 ウラン・ウデ市

さる昭和44年から留萌市と、日ソ協会留萌支部(黒江貞之助支部長)の手で進められてきた留萌市の姉妹都市提携は「ウラン・ウデ市」に決まりました。

ウラン・ウデ市は、ブリヤート自治共和国の首都。世界一深いといわれるバイカル湖畔に位置し、工業都市として発展途上にある街といわれます。

広いバイカル湖、広い大陸に拓けた街ウラン・ウデ市と、道北の門戸港るもいと活発な交友が、もうすぐ始まることでしょう。

留萌市と姉妹都市を結ぶことになったウラン・ウデ市は、世界で一番深いといわれるバイカル湖畔の南東に位置し、人口約二十万人の工業と大学の街といわれています。

ここに、ウランウデ市は、ブリヤート自治共和国の首都としてシベリア経済の中心地といわれています。

ここで、私たちは、ブリヤート自治共和国といわれても、政治、思想的にも違いがあり、ピンときません。

そこで、ウラン・ウデ市に入る前に、ブリヤート自治共和国について少しふれてみましょう。

この共和国は、総面積三万五千三百平方キロメートルで、なんと北海道の四倍の面積があります。私たちは、シベリアへ移住したのは、ロシア人だけだと思ってる人が多いようですが、実はソ連と同じように多民族(四種の民族

ブリヤート人、ロシア人、ウクライナ人、タタール人等)がシベリア地方に居住し、ここには、三つの自治共和国、三つの自治州、八つの民族区があります。

その中の一つに、ブリヤート自治共和国があり、人口の大部分はバイカル湖畔セレガン川流域に多く住んでいます。

十五年前は、農業工業国といわれていましたが、今日では、全産業の七十%が工業です。

ソ連の中心から数千キロ離れたこの共和国は、ソ連では四番目に大きい缶詰工場、七番目に大きいガラス工場など、多くは工業です。また、ここでは飛行機、電気機器、自動クレーン工場など、その製品は三十八カ国に輸出されています。

では、姉妹都市、ウラン・ウデ市を見ることにしましょう。

ウラン・ウデ市は、一九三四年以前は、ベルネウゼフスクと呼ばれていました。

そのほとんどは、ブリヤート人によって構成されています。

また、セレガン川ほとりの港として、全国の鉄道中継地として重要な位置にあります。

主産業は機械工業、金属加工業、軽工業、食品工業、建築材料、ガラス工場の他、鉄道車輛製作修理基地、航空機工場などが主工業です。

また、ウラン・ウデ市は、教育の街としても設備が整っており、農業、工業、図書館の各大学や、教育大学が二校もあり、わずか二十二万の都市に、大学だけでもこんな数あり、義務教育も徹底されているせいか、文盲の人はほとんどとさえないわれています。

施設も劇場三館、オペラ・バレエ等の劇場、芸術博物館、地誌博物館があります。

一九一七年以前は、ブリヤート人の大多数は文盲であったといわれます。

ブリヤート人の四%、ロシア人の子供七%しか学校に通っていません。つまりブリヤート人は、固有の文字を持っていなかったのです。

文字を持たなかったという点は北海道のアイヌ民族と似ているといえます。

ソビエト時代になって、人種差別もなく、遊牧民族から定着性のある生活が始まりました。

現在では、十六万部の本と十一の新聞、二つの雑誌が、ブリヤート語で発行されています。